

| | | |
|----|---------------------|------------------|
| 月報 | 日本キリスト改革派 横浜中央教会 | 2015年2月8日 2月号 |
|----|---------------------|------------------|

信仰の姿勢

立石章三

2014年度の年報巻末に「横浜中央教会の歴史」という図表を添付しました。これを見たある人が私に言いました。「現住陪餐会員は51名（2014年）なのに、その背後に他住会員だの別帳会員だのを合わせると87名、去って行った会員（転会、大会）40名ほどを総合計すると、130名近くになるんですね」。そのとおりです。教会という所は人の入れ替わりがある組織です。尤も、世の中の組織はもっと移り変わりが激しいでしょう。学校という組織は3年～6年たつと全員が替わってしまうのです。病院という組織ですと、医者が患者と付き合うのは、短ければ数日、長くても数年です。しかし牧師には定年はありませんが、会員とは様々な意味で、その人が死ぬまで付き合うのです。

さて国際基督歌大学（ICU）の名誉教授、古屋安雄氏の著作『なぜ日本にキリスト教は広まらないのか』の中に贈本のクリスチャンの信仰平均寿命は2.8年」という文章が出てきます。これは東京神学大学の元学長、故松永希久夫氏の「日本基督教団牛込弘方町教会のデータ」からの引用です。東京にある一つの教会から出しただけのデータですから、これを元に日本のキリスト教会全体のことを測るものさしにはできませんが、日本のクリスチャンのある状況を示しているかもしれません。私たちは「いつまでもいたい教会」作りを目指しましょう。

「日本人のクリスチャンは神学が嫌い」と良く言われます。これは日本人だけではなく、世界中で通用することではないかと思えます。「神学」とはクリスチャンの「神様について、キリストについて、教会について、もっと知りたい」と必然的にわいて来る感情が、説教やキリスト教書に向かわせる探求心です。好奇心を持たない人には神学はできません。神、キリスト、教会などについて、もっと好奇心が起こされるよう祈りましょう。「教会はどうあるべきか」と真剣に考えない人が、教会の礼拝に熱心に集うとは考えにくいですね。礼拝厳守するからこそ、疑問も探求心もわいてくるのです。そして解決への答と道も礼拝の中から与えられます。

説教について「もっと身近なとっつき易い話を」というのは、いつでも聞かれる信者の要求です。「幸福な結婚」「幸福な家庭」「幸福な人生」というテーマで説教すれば、人々は幸福を求めているのだから聴衆が増えるだろうとも言われます。これについては、神学研修所で説教を担当している私としては、聖書が教える原理原則を正しく学べば、人生はその応用問題だから、自然に幸福な人生が分るはずだ、としか答ようがありません。聖書は「主の教えを愛する者は、...流れのほとりに植えられた木」（詩編1:2、3）という単純な言い方で教えています。ここでは「主の教えを」「守れば」とは教えていません。もっと積極的に「主の教えを」「愛する」、つまりもっと実践的に学び神学するのです。新改訳聖書は「主の教えを喜ぶ」と翻訳しました。神様は私たちに、もっと親子のように対話すること、時には神様と格闘すること（創世記32:29）を求めています。それが神様と「向かい合う」こと、クリスチャンのあるべき信仰の姿です。

2015年度のオリーブの会について

K. K

昨年は東部中会婦人会の当番教会としての活動に皆で頑張った年でした。

今年は元のペースに戻し、足元を見つめていきたいと思えます。新会堂の増築についてはオリーブの会としてもお手伝いできる事がいろいろあると思えます。

月1回の例会では立石先生の「シヤキッ！と歯ごたえ」を学んできましたが、そろそろ終わりに近づき次の教材を考えています。皆に相談しなければならない事も多く、学びに多くの時間が取れないことが課題です。

今年もオレンジママレード作りを予定しています。収益は会員の中からも要望のある、新しい食器類を購入する事の為に使いたいと思えます。その節には皆さんにママレードを購入して頂きたいと願っています。

今年もオリーブの会が元気に活躍できます様に祈ります。

2015年の壮年会について

N. K

昨年の壮年会の学びは、月ごとの担当者が自由なテーマで発題し、それに基づいて話し合う、という形で行いました。自分の知識や思考の幅を広げられる楽しさ、また話し合うことを通して互いのことをわかりあえる恵みを感じました。

2015年度も同様に、発題者からのテーマに沿った意見交換をしていこう、ということになりました。相互のことを知り合いながら、横浜中央教会の展望を共有していくことができるかと期待しています。話を聞くだけでも得るものが大きいと思えますので、これまで壮年会にいらしていない方も、ぜひお気軽にご参加ください。

課題は、執事の方々が参加しやすいようにどう工夫するか、ということです。

その他の活動については、2月の壮年会で話し合います。昨年行った流しそうめんは好評で、「今年もぜひ」との声が多くの方から寄せられています。教会内だけでなく、少し外に広げて、教会を知っていただく機会にできるかもしれません。

私たちは神様から恵みと責任を与えられてそれぞれの家庭に職場に社会に置かれています。罪に満ちている世。混沌とし危うさの深まるこの世界で、光である主を見上げ、一つの幹に連なる枝として祈り合いつつ、歩む一年でありたいと願います。